

要旨	研究ニーズ	短期・中期的に必要な研究 (ICRPの次期基本勧告)	長期的に必要な研究 (10年を超える研究)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 背景と目的 2. 体系の目的と原則 <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 2. 人々の防護 3. 環境とヒト以外の生物相の防護 4. 正当化の基本原則 5. 最適化の基本原則 6. 線量限度の適用の基本原則 7. 被ばくのカテゴリと被ばく状況 3. 包括的な考慮事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線防護の倫理的な側面 2. コミュニケーションとステークホルダーの参加 3. 教育と訓練 4. 線量 <ol style="list-style-type: none"> 1. 線量 2. 年齢、性、特定個人の実効線量 3. 医療における実効線量の利用 4. 実効線量係数 5. ヒト以外の生物相と生態系に対する線量 5. 影響とリスク <ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線誘発影響の分類 2. 組織反応 3. 低線量および線量率におけるがん 4. ヒトの個人応答 5. 遺伝性影響 6. 異なる影響への放射線加重 7. 放射線デトリメント 8. ヒト以外の生物相や生態系における影響とリスク 6. 結論 	放射線リスク評価	放射線健康影響の分類 組織反応の再整理 確率的影響と放射線デトリメント <ul style="list-style-type: none"> • がんリスクモデルと組織加重係数 • 線量率効果とがん • デトリメント計算における放射線以外の因子 • 循環器系疾患のデトリメントへの潜在的影響 • 胎内被ばく • 子孫および次世代への遺伝性影響 • 不確実性分析 • 個人反応 • ヒト以外の生物相への影響 	基礎研究 複合被ばくの影響
	線量評価	生物学的効果比、線質係数、放射線加重係数 医療およびその他の用途のための適切な線量 緊急事態における線量評価	臓器・組織における線量標的の定義 環境防護のための線量測定 測定の方法論 人体組織放射性核種/物質体内動態モデル
	放射線防護体系の適用・実施	放射線技術の開発と利用 <ul style="list-style-type: none"> • 治療と防護における医療利用の意味合い • 治療と防護における獣医学的実践の意味合い • 自然起源の放射性物質 (NORM) 等の産業および学術用途 • 放射線被ばくによる自然線源 生態系の防護 放射線防護体系の適用に必要な研究 <ul style="list-style-type: none"> • AIの放射線防護実務への影響 • 放射線とその利用に関する認識・理解の社会科学的研究 • ステークホルダーの参加とコミュニケーション科学のためのメカニズム • 倫理 • 行動科学 	